



無所属 山本佳代子

常滑市、半田市医療連携等の協議会の結論と今後の方向性は

早い時期に市民への機能連携・経営統合・経営形態についての説明会を開催しなかったのはなぜですか。

協議会は4回開催され、今年2月に両市間で半田市と常滑市の病院連携協議に関する合意書等の調印に至ったもので、より具体的になった段階で説明すべきと判断したものです。

病院職員への説明会の回数とその時の意見や質問はありましたか。

昨年11月に2回行い300人が参加し、両病院間の移動手段についての質問がありました。職員に対して今後も理解と納得が得られるよう説明していきます。

病院の統合で利便性が低下することが想定されますが、それをカバーする方策はありますか。

両病院間を結ぶシャトルバスを考えており、診療科を一つの病院

に集約することで、より質の高い、安全な医療の提供ができることも、優秀な医師の確保や病院の魅力が増すことが期待できます。

独立行政法人化することに伴い、システム改修や退職給付引当金の上積み金はどれくらいになりますか。

今後、両市で見積もりをしていきます。

常滑市・半田市医療提供体制等協議会の報告書の「機能分担案」からみる課題は何ですか。

市民の皆さんに不便をかけることが懸念されます。また経営面では、どちらの病院にも存在する診療科が数多くみられ、非効率になることが最も大きな課題であると認識しています。

独立行政法人化した場合のデメリットについてどう考えていますか。

新たなコストの発生、業務量の増大です。市民への説明会の方法等はどうかになります。

協議体のなかで調整します。



創造みらい半田 久世孝宏

山車文化の保存と継承のための拠点を整備しよう

総合計画、並びに産業観光振興計画にある、山車文化を広く発信する拠点の整備について進捗状況はどうなっていますか。

計画策定時の商工観光課や現観光課において、他市町の山車会館に類する施設の見学や、運営状況等のヒアリングを行うなど情報収集に努めてきましたが、観光客の集客や経済効果を主目的とした施設の整備については多くの課題があると認識しています。事業実施に向けての構想、計画の策定までの着手には至っていません。

山車文化の保存と継承をしていく拠点が必要だと考えます。一つの案として、山車文化の保存と継承の機能を強化した博物館を、山車文化の情報発信の拠点として蔵のまちエリアに移転整備し、図書館、博物館の狭域化の課題も合わせて解決することを提案しますが、どのように考えますか。

図書館・博物館のあり方については、公共施設全体の更新計画の中で再配置も含め、整理していく必要があります。現段階においては、現在の場所での「山車を展示している博物館」として広く周知するとともに、山車文化の魅力を発信していくことが最良であると考えます。

総合計画の計画期間は残り2年、産業観光振興計画は残り3年です。観光施設としてだけではなく、山車文化の保存と継承のための機能も持つ施設として、検討を始めるべきと考えますがどうですか。

短期的にどうしていくかを決めるのは難しいかもしれませんが、中・長期的視点からしっかりと取組んでいきたいと思っています。



無所属 加藤美幸

持続可能な開発目標SDGsの推進

2015年に国連の採択した「持続可能な開発目標SDGs（エスディーズ）」とは、2030年にむけて世界を変えるための17の大きな目標（ゴール）と、それに沿った169の具体的な目標（ターゲット）からなります。経済・社会・環境のバランスの取れた発展が求められ「誰も置き去りにしない」が世界共通の理念です。国レベルから、現在では多くの地方自治体や企業が「持続可能な開発目標SDGs」に対応した施策や事業を進めています。半田市も積極的に取組むべきと考えますがどうですか。

これまでは特に意識していませんでしたが、17の目標の多くが地方公共団体が目指す住民福祉の向上に資することに加え、持続的な市の発展に重要な視点であり、次期第7次総合計画をはじめ、今後策定する各種計画に「持続可能な開発目標SDGs」を取入れ、

具現化に向け市民や企業・団体など皆で取組み、普及啓発にも努めます。

子どもたちへは、どう取組みますか。

小中学校では社会や理科、道徳など現在の学習と関連付けしながら充実させていきます。

